

医学教育改革のあゆみ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/9136

医学教育改革のあゆみ

Changing Environment of Medical Education

金沢大学神経内科
高 守 正 治

医学教育の理念は、高度な医学的知識、医療技術を身につけた医師を育成し、創造的思考力による自主的勉学意識を獲得させるとともに、生命をあずかり深く社会と関わりを持つ職業人となるための認識、人間的要素を持った医師を育成するにある。大学設置基準の改正による6年一貫教育が導入され、各大学でカリキュラムの改編が進行しているが、わが金沢大学でも、斬新な方法を導入して、上記の理念を具体化中である。顧みれば平成5年11月、当時の竹田医学部長のもと中部地区医学教育シンポジウムが開かれた。当時の教務委員長として改革先行中の他大学の担当教授もまじえて議論された内容をまとめると、(1)一般(教養)教育：ほぼ50単位以下への削減。必須科目と自由選択教科の幅の持たせ方。「ヒトの科学」の導入。職業的実務教育とヒトを対象とする医師となるための情操教育の折衷。(2)初期体験実習：初学年次からの人体解剖実習、看護実習、全人医療、インホームドコンセント、末期医療、救急医療の体験学習課程導入。(3)専門教育方法の改革：「講義形式よりも実習を多く」、「小グループでの自主的学習」、「基礎、臨床交流の上に立った臓器別体系からの疾患のとらえ方」、「臨床課程中での基礎再学習」、「総合臨床部開設努力とその医学教育への活用」などであった。これらの実現に当って、(1)の一般教育改革は他学部との折衝に時間が費やされ、山本長三郎教授ほかの当時の学部教育等検討委員、その実務委員である井関教授を補佐し、理想と現実のはざままで彷徨したのも今は思い出である。当時発案した「医学入門」は、医学部教官の協力で実現化し大変好評と聞く。当初できなかった(2)の初期体験実習は、宮崎病院長の御理解、渡辺現教務委員長の御努力で実行に移され、これも好評と聞く。他学部進学学生への教育にも、3柱からなるテーマ別科目として積極参加、好評と聞くが、これも前2者同様医学部各講座の多大の協力なくしては実現できないことであった。(3)の専門教育改革については、教務委員会の下部組織として新カリキュラム検討小委員会をつくり、全学的検討の骨組みだけをつくって、次の渡辺教務委員長にバトンタッチした。その後、着々と進む改革は周知の通りであり、渡辺委員長の御苦

勞に深謝する次第である。概して教育の効果は10年以上を経なければ目に見えるかたちでは現れないと言われるが全教官の協力と努力の成果が、わが大学の更なる飛躍のかたちで具現化するよう念じて止まない。

卒後医学教育の改革も大きな問題である。広根前病院長時代に立案された臨床研修制度は、現宮崎病院長によって実行に移されたが実務をあずかる小林健一教授ほか委員の方々には、学内のとりまとめ、関連病院との交渉などに大変な御苦勞があった。他大学に先行したこの制度の成果の如何は、全国からも注目され、期待をされている。卒後教育改革のもう一つの柱は、大学院制度の整備に裏打ちされた研究の問題である。医学部、医科大学が21世紀に生きのびるための切実な問題ともいえよう。山本医学部長、中西教授らを中心に鋭意検討中と聞く。大学の研究活動の業績を公正に評価するのは仲々困難なことである。近年、科学活動の評価システムとして論文生産数や引用件数に注目した計量文献学が色々の評価基準に利用され、1994年11月10日号 Natureに日本の研究機関の業績評価の試みが発表された。海外発表論文からみた旧6医大のランク付けをみると、全論文数では金沢大は第10位とわるくない位置付けがなされている(熊本大9位、新潟大15位、岡山大24位、長崎大25位、千葉大31位)。ところがファカルティ論文生産係数が14位なのに全研究者論文生産係数の順位は19位に落ちる。助手、大学院生など若手の奮起を望む資料もとれる。10年間に1,000以上の論文を出版した大学の論文の引用率順位はわが大学は24位(熊本大14位、千葉大15位、新潟大22位)である。一流誌への一層のチャレンジがのぞまれよう。最後に、医学部の自己改革が求められている現状を厳しく受けとめ、更なる“企業努力”を皆さんとともに誓いたい。そして、他に向かってわれわれの希望を述べるとすれば、学生諸君にはマニュアル的勉強でない考える医学を身につける努力をして欲しい。また、現代社会の医療が「高度・先進」とともにそれが「情意」に裏打ちされるよう求められている今日、医学教育に先行する初・中等教育のこの面での支援も願いたいところである。